

日本バプテスト連盟 全国壮年会連合

東京地方壯年連合通信

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN

2019年3月16日

研修会特集

発題：『私たちは何故バプテストなのか』

講師：明治学院大学経済学部教授 大西晴樹氏
元明治学院長 恵泉バプテスト教会員

東京地方壯年連合監査 久場俊男（くば としを 恵泉バプテスト教会）

東京地方壮年連合では、20年来、毎年バプテスト主義に関する講演会を行ってきました。これは、滝川佳秀（よしひで）元会長（大井バプテスト教会）の時から行っています。特に昨年亡くなられた岡村正二牧師（志村バプテスト教会）を始め、多くの先生方にお世話になりました。

2月16日(土)新小岩バプテスト教会にて、大西晴樹先生を迎えて東京地方壮年連合主催・東京地方連合共催による第23回研修会が開催されました。

今回の大西晴樹先生の講演会で注目すべき点は、バプテスト教会は各個教会主義で、互いに連合同士で助け合っていたということを聞くのは初めての人が多かったのではないかという点です。

75名の参加で、質疑応答も多数あり大変有意義な集いでした。

これからも壮年連合では眞のバプテスト教会を形成するために、講演会を続けて行きたい。

講演「私たちは何故バプテストなのか」を聴いて

栗ヶ沢バプテスト教会 渡辺光雄（わたなべ みつお）

私の所属する栗ヶ沢バプテスト教会は、2月に現在地での伝道開始50年の節目を迎えました。連盟直属の伝道所として牧師が派遣され、土地建物も全国協力伝道・連盟の全面的な支援を受けてスタートしました。以来今日まで、教会はバプテストの信仰と教会形成を基本に据え、

様々な伝道活動を通して成長を願ってきました。バプテストのあり方を誇りとし、牧師と共に信徒が良く働く群れが形成されてきたように思います。しかしながらここ数年の間、信徒間で「バプテストのあり方」を巡って、温度差、認識の相違を感じることがあります。これまでの教会を担ってきた高齢者や病気による引退、青年層が少なく、他教派からの転入会など会員の変化が考えられます。また、以前ほどバプテストの信仰についての学びに取り組んでいないこともあります。50年を超えて新牧師と共に、これから教会形成を考えるとき、「バプテストのあり方」にどう向き合うか、大切な課題と思っています。

今回の企画を知り、栗ヶ沢の課題を考えるうえで、バプテストの基本を再確認したいと思い講演のみを聴講させていただきました。全体のテーマが「協力伝道会議パート2」の一環としての講演内容でしたので、バプテストにとって地方連合（アソシエーション）の歴史、役割と連盟の関係が主であったように聴きました。私は期待される地方連合の役割に、これまで以上に自分の教会がどのように関わることが出来るかを考えさせられました。

栗ヶ沢教会の建てられている地域は典型的なベッドタウンで、子どもの賑わいより高齢者や一人暮らしが多くなりました。また、外国人、他教派の方で遠くの自分の教会に出席が難しくなった方が、私たちの礼拝に出席することも見受けられます。こんな状況の変化の中で、教会が様々な人を受け入れようとするとき、バプテストの信仰に対するこだわりも、或いは考え方の変更が必要が生じるのではないかと感じます。これからの大変な課題として、今回の講演の中でいくつかのヒントをいただいたことを感謝します。

「私たちは何故バプテストなのか」を聴いて

篠崎キリスト教会 上原一晃（うえはら かずあき）

主のみ名を賛美します。キリストの体は一つ
エフェソ 4:3 『平和のきずなで結ばれて、靈による一致を保つように努めなさい。』

会場の新小岩教会・川口義雄牧師、講演の大西晴樹講師に感謝します。
講演では、アソシエーション・地方連合が重要であると理解出来ました。地方連合の役割は所属する教会の諸質問を議論し、決定を下す。各

教会の自治を尊重し、民主的、密接に「総会」などを定期的に開き運営した。

パティキュラー派の地方連合の記録に、破門・推薦状の情報があった。第三代大統領トマス・ジェファーソンは、コネチカット州ダンブリンのバプテスト地方連合からの信教の自由の訴えに、「教会と国家の分離の壁を作る」と返答。等々興味深い内容でした。

特に印象に残ったのは、彼らは説教者となる訓練や準備を受けたこともなく、本を読むゆとりもない、牧師の肩書は隣の教会でも通用しない。自分の教会以外の干渉を好まず、中央からの統制を思わせるようなことに同意しないとの『各個教会主義批判』でした。

東京地方連合の協力伝道会議や集い・交わりは、あるべき教会・協力伝道を語り合う。どんな元気のある教会があるのか、どの様な自立の方法があるのか、を知る機会であり、各教会の違いを感じつつ、互いの違いを認め、違いを持ったまま召された者の1人としてキリストによる一致をめざして、東京地方連合の役割の重要性を再認識出来、感謝です。

篠崎教会は、会堂建築の借入金返済の課題を持ちつつ、久山療育園への「1円献金」と他教会への十一献金を続けています。又、昨年からフードバンクのセカンドハーベストとして食料品と古本・CDの献品を始め、これも継続中です。

水曜と木曜の祈祷会（新・旧約の学び）は、兄弟姉妹と共に賛美・学び・祈りの時で、恵みと感謝の時です。

今後もこのような交わりに参加し、他の教会の元気な報告を聞き、篠崎からの発信もしていきたいと思います。

◇ 2018年度神学校献金(目標 500万円)のお願い◇

神学生支援に対する日頃のご理解に感謝申し上げます。本年度も残り少ないですが、500万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

今年度3月末は、土日となります。振込が次年度扱いにならないようにお願いいたします。

発行人：東京地方青年連合会長 竹下達也

編集人：佐藤洋二

連絡先：千葉県柏市東中新宿4-7-5-104 〒277-0061

tel. 090-9834-9464 e-mail. qp4316_1107@yahoo.co.jp

